

宮古歴史マップ

宮古街道
 国道
 県道
 主要地方道
 石神・碓氷
 長門川



宮古伝承メモ
紫大夫と義経北行伝説
 宮古には、今もたくさんの「義経北行伝説」が残っていますが、かつてこの地を訪れた紫大夫も滞在し「横山八幡宮」を訪ねその伝説について詳しく記しています。「その昔、義経と弁慶の一行が奥州下りの際にこの地にやって来てお経を納めた。そのお経の一行を神様が授けて金吾正で売っていたが、領士の命令で経文は、石籠に納められ封印された。しかし自分はずつと覚えて自筆の経文を2枚もっていた」という記述があり、その頃から義経北行伝説が存在していたことがわかります。

宮古伝承メモ
開伊川
 紫大夫は、その日記の中で伊川として開伊川の経路について、「橋をヤスで突き刺すか、川の流路を立てて開で取るなど角さ見見れば、決して取り違がな」と感嘆し、豊かな開伊川の川流の様子を記しています。また、開れた橋は格別においしいと賞賛されていると記述。さらに宮古から盛岡に向かう途中の開伊川の流れが急で「若石崩れ草木が茂り景がことほか良い、面影もなかなか麗しに及ばず」とその流流を讃えています。



宮古歴史アツカルト
千徳城跡(千徳八幡宮)
 千徳城跡のあたりが惣見野の一部となっている平山城の千徳城跡。開伊川下流の重要な拠点で、この地方を支配した河北開伊(千徳)氏によって14世紀頃に築城されたといわれる。その後、南部氏によって文禄の役(1592-1593)の頃に取り壊された。現在では八幡神社が祀られている。



約6千〜7千の「おばけ」
 黒森山 310m
 黒森神社

宮古歴史アツカルト
崎山貝塚【国指定史跡】
 崎山貝塚は縄文時代のムラや貝塚がそっくりそのまま残されており、当時の生活や文化を探ることのできる遺跡。縄文人たちが食べた貝や動物などの骨の他に、縄文時代でも古い種類の「骨や肉で作った道具(骨角器)」も数多く出土。現在は国の史跡として指定を受け、史跡公園として保存・活用されている。

宮古歴史アツカルト
瀬ノ浜と熊野神社
 心空院の山門を過ぎて坂を上っていくと一気に海岸の眺望が開けます。瀬ノ浜の町と波打ち際の風景が連続する風景明媚な海岸線。「瀬ノ浜」に逗留していた紫大夫は、開伊である「瀬ノ浜」を訪れ、開が釣れることや「熊野神社」を参拝したことを記述しています。



紫大夫は、この地方の暮らし方の節度を記録。かつて、米が取れなかったこの地方で、生きる糧であった海藻の「メノコ」採り、一晩に作る出汁のルールで、共同体で生きる古い日本の暮らしを記しています。西宮人が宮古に滞在した日記から一部抜粋しました。人情が伝わる江戸時代を熟読してみませんか。

宮古滞在の記録 ～「新清可勢」より～
 文政12年(1829)
 4月1日
 諸々古跡へ行く。黒森大明神、八幡宮の社前に遊覧あり。この八幡宮に大昔義経内能奥州下りのみざり来たりて経を納めたり。開伊川の川面に小屋を掛け橋をヤスにて掛けつく。決してはずさず、妙を得たる御師なり。

4月13日
 この日は海風に逆風やすし。老婦かを御食い御を更りに来る。多くて開るなれど預らざるに寄る。我食ぬやといひし。はなしの種と思ひ少々食いしところ開くて口にもたす。(メノコ製の吹きかや配合を寄る記す)

5月4日
 方々より相談などを請う。

5月15日
 当所は米不自由なる所に、メノコ製というを三度食す。何程の大家なりとも、主人よりして寄これを受す。我食ぬやといひし。はなしの種と思ひ少々食いしところ開くて口にもたす。(メノコ製の吹きかや配合を寄る記す)

6月20日
 遠向開伊(開伊川)河川にて、遊覧する。別よろし(海遊び)

6月28日
 紀州御師死去に付7日の御物御停止。我出立も程近くなり、当所の若者女等の橋古平にて、蒸籠といえる土籠の中へとじこもり、我りの橋古をつとめる。橋古残りを楽しむ。

6月29日
 瀬ノ浜川に人江なれども若き毎に。当所にて漁し網と籠(かたい)を更りにくる。網目下2尺(約60cm)ある300文なり。網1尺8寸程ある。これを打ち寄せて食す。(みんな集まって食べた)

7月3日
 当所ではおこよといえる女郎一番なり。やも取り強弱も食くないが寝たな言ある故これを御説とする。おこよの世話にて名残する(浄瑠璃)語る。(集まった人たちの名前を記している)

7月4日
 葉屋にて網と浄る里詣る。葉屋お食といふ人祝儀は正定出す。お祝儀に十なまこなどをいただく。

※原注の中に刺印とは違う漢字使いがあります。

2010年のオープン
 浄土ヶ浜レストハウス
 2010年のオープン
 浄土ヶ浜ビクターセンター
 浄土ヶ浜パークホテル
 浄土ヶ浜舞台劇場
 宮古海産物記念館
 浄土ヶ浜ターミナルビル



約150年前の宮古
 三浦伊達海軍正分隊跡
 (盛岡市中央公園内蔵)
 現在の宮古と比較してみてください。



駅後の碑 映画「大いなる脱走」のモデルになった鉄道員を讃えた碑。

1 横山八幡宮 宮町2-9-7 あり
 市内入り口の国道108号と開伊川に挟まれた、こもりとした山に立つ横山八幡宮。創建は天文9(1540)年といわれ、境内には「宮古」の由来の一説になっている御神木の杉が立つ。隣接する宮古第一中学校の校舎には、就から生き直ったという「逆さ経文」の木がある。

宮古の由来 「宮古」の名の由来は諸説ありますが、通説とされる横山八幡宮に伝わる伝説をご紹介します。
 寛弘3(1000)年、高麗で有名な阿波の権門(徳島県)が突然大きな音を立て、御清満をく天宮地獄が起きた時に、横山八幡宮の権宜(神官のこと)が歌を詠みこれを鎮めた。大宮様はたす(一条天皇)が権宜を召して八幡宮の様子をお訊ねになった。権宜が返答に詠んだ歌に大宮様心なされた。その歌の中から一節をとり「新」と異字同訓の「宮古」という地名を権宜に賜り、以来この地方をそう呼ぶようになったそうです。

2 経塚の碑 開野町5-13
 経ヶ崎小学校そばにある自然石の碑で、別の場所で見つかったものを現在地に移して保存された。碑には文字が一字刻まれ、その下に暦応3(1321)年7月15日と刻まれる。文字は、後醍醐天皇の御名。この地方に天台真言の密教が流行していたことを証明する貴重な資料でもある。

3 経塚の碑【一字一石経塚】 盛岡市 あり
 盛岡市公園内に立つ、今から600年以上前の永徳2(1376)年に建立された自然石の碑。土中には一つの石に一字ずつ経文を書いたものが埋められており、「経塚の碑」と共に南北朝時代の宮古を探る貴重な遺跡の一つである。作民からは「一石経」の愛称で親しまれ、春には桜と宮古湾の眺望が楽しめる。

4 常安寺 沢町4-11 あり
 宮古市常安寺は、豊前のお寺で豊前院の天寺にあたる。天正8(1580)年に、豊前院の三層塔門前が国合にお寺を建立するも、慶長6(1601)年の大津波で流されてしまい、寛永2(1625)年に現在地に再建された。また浄土ヶ浜の命名者として知られる七世、富良野大智院の時代、享保元(1716)年には大修理が加えられた。

5 判官権禰神社 沢町22
 常安寺の山門入り口付近から南東に登る道の峰上にある判官権禰神社。源義経の甲冑を埋めて御神にしたという伝承があり、開伊川、宮古市内、開ヶ崎、瀬ノ浜を見下ろすこの峰は、「開塚」と呼ばれる古い御宮でもある。「開塚」は「九郎塚」の訛化したもので「判官塚」とも別称されている。

6 黒森神社と黒森山 山口 あり
 宮古を一定する黒森山の山腹に立つ黒森神社は、故上田村麻呂の御廟と伝えられ、江戸時代の資料には延宝元(1703)年の棟札があったという記録がある。黒森は「九郎塚」から変化した。九郎村有海軍艦が黒森藩に大旗を掲げたとの伝承も残る。また伝説に「黒森神楽」は、国の重要無形民俗文化財に指定された。

7 大杉神社 光原地4-8
 祭神は「天の乎力命尊」、統子(千葉原)のあはば様を勧請したのが始まりといわれる。現在地に社殿が建てられたのは昭和8(1933)年のことで、別名「あはば様(開塚様)」の名で漁師達に信仰されてきた宮古を代表する神社の一つである。宮古湾、宮古湾、月山などが一望できる素晴らしい眺めは一見の価値あり。

